

## 第9回 北広島市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 会議概要

日 時	平成29年10月4日(水) 15:00~16:15
場 所	市役所3階3D会議室
出席委員	山本一彦委員・井出真也委員・井上智裕委員・小野麗子委員・小池隆史委員・ 宍戸圭子委員・丹野司委員・林武志委員・山口隆弘委員・山本昌泰委員・ 森真治委員・渡邊幹夫委員
欠席委員	藤山康雄委員・深村真人委員
事務局	川村企画財政部長・橋本企画課長・塚田主査・安井主任
傍聴者	0名
会議次第	1 開 会  2 委嘱書の交付  3 推進会議委員・事務局紹介  4 会長及び副会長の選出  5 会長あいさつ  6 議 事  (1) 総合戦略事業の進捗状況について(資料1-1~1-3)  (2) 総合戦略の見直しについて(資料2)  (3) 次回推進会議の日程  (4) その他  7 閉 会

### 1 開会

委員 14 名中 12 名が参加。委員の過半数が出席していることにより、会議が成立していることを報告。

### 2 委嘱書の交付

委員へ委嘱書を交付

### 3 推進会議委員・事務局紹介

各委員・事務局紹介

### 4 会長及び副会長の選出

委員の意見により選出は事務局に一任され、会長に山本（一）氏、副会長に山本（昌）氏が選出され、委員に承認された。

### 5 会長あいさつ

山本会長よりあいさつ

### 6 議事

#### (1) 総合戦略事業の進捗状況について

(事務局より資料に沿って説明)

〈基本目標 1 希望 ～子どもを産み育てたいという希望をかなえる～〉

#### 【A 委員】

・「男女共同参画推進事業（ワーク・ライフ・バランス推進）」に関する支援制度は、企業等から要望があって創設されたのか。

#### 【事務局】

・平成 28 年度に市内事業所に対しワーク・ライフ・バランスに関するアンケート調査を実施し、その結果を踏まえ、男性の働き方を変えていくような助成制度の創設やワーク・ライフ・バランスを考えていきたい企業を支援していくこととした。  
助成制度は、10 月 1 日に施行し、今後、北広島商工会や北広島市工業振興会を含め各事業所に働きかけていきたい。

〈基本目標 2 交流 ～北広島市への新しい人の流れをつくる～〉

#### 【B 委員】

・「子育て世代マイホーム購入サポート事業」に関して、北広島団地地区の転入の割合が低い状況となっているが、空き家等が出てこないと入ってこれないとする。空き家等対策の進捗状況はいかがか。

**【事務局】**

・当市における空き家対策については、空き家を解体する費用を支援しており、平成 28 年度は、10 件を支援し、そのうち 9 件については、空き家の解体後、新たな住宅が建ち上がり、新たな定住に繋がっている。

また、企画課では、住み替え支援事業を行っており、現在の住居から、利便のいいところに住み替えたいという相談を定期的に受け付け、様々な仕組みで、総合的に活性化が図られるよう進めている。

ただ、住み替え支援事業の中で組織している「住み替え支援協議会」では、不動産事業者から、なかなか物件が出てこないという実情があると聞いている。

**【C 委員】**

・「ふるさと応援事業」について、体験型が弱いとなると、KPI「返礼品による来市者」の 100 人の達成が厳しいと思われるが、見直し等の予定はないのか。

**【事務局】**

・当市のふるさと納税に関しては、特産品の寄附が多い現状にあり、来市者は 20 名程度となっている。ただ、KPI の見直しについては、特段予定していない。

また、12 月 3 日に東京北広島会の設立総会を行うこととし、準備を進めているが、本会を活用して東京圏に居住している北広島にゆかりのある方に当市をアピールすることで、ふるさと納税などに繋がればと思っている。

〈基本目標 3 成長 ～時代に合った魅力的なまちをつくる～〉

**【D 委員】**

・北広島団地地区に関して、イメージアップ動画や空き家の解体やリフォーム制度などいい取り組みをしているなど感じているが、地域住民からすると買い物が身近で済ませられるような商店がほしいことが実情であると思っている。

難しいと思われるが、今後は、「北広島団地イメージアップ事業」を進める中で、商店の誘致など考えていただければと思っている。

**【事務局】**

・買い物については、市民が安心して住むための大変重要な要素であると考えており、商店が立地することは難しいことと思っているが、北広島団地地区の課題として認識しており、どのような対応ができるかに、経済部と連携して考えていきたいと思っている。

〈基本目標 4 挑戦 ～チャレンジできる環境をつくり、起業と雇用促進する～〉

**【E 委員】**

・「働きたい女性のための企業合同雇用促進事業」に関して、企業の求人ニーズが前提にあると思うが、そのほか重要になってくることは求職者に対してどのように情報を伝えるか、参加人数を確保するかである。どのような方法をとっているか。

**【事務局】**

・周知方法については、新聞折り込みでチラシを配布し、求職者やこれから働こうとしてい

る方などに周知をしている。またホームページなどに掲載している。

**【B 委員】**

- ・新聞折り込みの配布範囲は、北広島市内か。

**【事務局】**

- ・市内だけでなく、近郊の市を含めて配布している。

〈全体を通じて〉

**【B 委員】**

- ・「住み替え支援事業」に関連して、北広島団地地区が世代交代の時期にきていると思うが、住み替えたいと希望する人は、除雪が大変だとか庭の維持ができないなど様々な要因があると考えられる。高齢者が住みやすい住宅は、不動産事業者で供給が進んでいるか。

**【事務局】**

- ・住み替え支援事業の中で、住み替えセミナーや相談会を実施しており、今すぐに住み替えたいという人より、今後どうしようかと考えている方が比較的多くいる印象である。

また、住み替え先については、駅周辺に市で管理している物件がないことから、サービス付き高齢者住宅などの施設に関し興味を持っている方が多い傾向にある。

市としては、UR 都市機構と連携しており、UR 住宅に興味がある方がいれば、UR 都市機構、市民、行政の三者が連携をとることが可能である。

**【F 委員】**

- ・北広島団地地区について、以前、容積率が非常に厳しく、連続する2筆を3筆に分割し、住宅を建てるのが困難であるため、不動産事業者にとって魅力がないという話を聞いたことがある。総合戦略では、現状を改善しようという方向にあるか。

**【事務局】**

- ・北広島団地地区は、容積率が40～50%のため、100坪を所有している方でも、2世帯住宅を建てるとなると難しい現状がある。一方では、建ぺい率と容積率の緩和に対して賛同しかねるという方もいる。10年前に実施したアンケートでは、ゆとりある住環境を維持したいという回答が多く、緩和に至らなかった。

ただ、若い人たちが求める住宅像は、60～70坪の土地に住宅を建てるというニーズもあることから、今後アンケートを実施したいと考えている。

なお、アンケートで全てを決めるということではなく、市民に説明会等を行いながら、全地区がダメであれば、一部をモデル地区に指定するなどし、対応したいと考えているが、この場合、都市計画の変更となり、北広島市の考えだけでは変更できず、札幌圏域全体で了承してもらわないとにならないことから、ハードルは高いと考えている。

(2) 総合戦略の見直しについて

(事務局より資料に沿って説明)

- ・委員からとくに意見はなかった。

(3) 次回推進会議の日程

- ・次回会議は、2～3月を予定しており、実施日については、改めて調整したい。

(4) その他

- ・特になし

7 閉会